【資料紹介】

翻刻　渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡（続）

渡部寛一郎文書研究会
（要木純一・竹永三男・板垣貴志・内田融・大國由美子・大原俊二・居石由樹子・小林啓治・小林奈緒子・沼本龍・原洋二・本井優太郎）

摘　要

渡部寛一郎文書は、渡部寛一郎日記、剪淞吟社に結集する人々の漢詩と関連文書、若槻礼次郎ほかの渡部寛一郎宛書簡、私立中学校修道館など渡部寛一郎が関わった教育関係文書などで構成されている。中国文学・歴史学などの学際的研究によってこれらの諸文書を解読・分析し、近代日本の漢詩文学と政治文化の関連を山陰地域に即して実証的に追究することが本プロジェクトのめざすところである。今回は、前号（大正期分）に引き続いて、渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡の昭和期分を翻刻紹介する。

キーワード：渡部寛一郎　若槻礼次郎　近代　政治　漢詩

［解説］

本号には、本誌前号（『山陰研究』第八号、二〇一五年）に掲載した「渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡」に続く、一九二七年（昭和二）以降の書簡等の翻刻を収める。若槻礼次郎の師であり、若槻の個人後援会である克堂会会長であった渡部寛一郎と「渡部寛一郎文書」（曾孫の原洋二氏所蔵）については、本誌第七号・第八号掲載の「解説」を参照していただくこととし、ここでは、本号に翻刻・掲載した書簡について、次の四点を指摘して解説とする。

第一に、本誌第八号には、内閣の交代、帝国議会の開会と解散、衆議院議員総選挙の実施状況および渡部寛一郎、若槻礼次郎の経歴を対照して一覧把握できるように作成した「表」（【表1】）を掲載したが、それを改訂し、誤記等を正した改訂版を稿末に【表1】として掲げた。本誌第八号・第九号（本号）で翻刻・紹介した若槻礼次郎発渡部寛一郎宛書簡は、この【表1】を参照してお読みいただき、その政治史上の位置を確認していただきたい。

第二に、【表1】の期間を含む第11回（一九一二年）から第19回（一九三六年）に至る九回の総選挙による政党別の当選議員数・得票総数を、全国と島根県のそれぞれについて示したものが【表2】【表

3】である。これによると、島根県では、立憲政友会の第二次西園寺公望内閣（内務大臣原敬）の下で執行された第11回総選挙においても、中央倶楽部（立憲同志会・憲政会を経て立憲民政党に至る）の当選数は立憲政友会に並び、大隈重信内閣下の第12回総選挙[1]で与党立憲同志会（憲政会は一九一六年創立）は五人の当選を得て立憲政友会（全員落選）を圧倒するなど、県内に強い勢力を有していた。その後、憲政会は、普選運動の全国的高揚の中で前年の衆議院議員選挙法改正（納税資格の引き下げと小選挙区制採用）を活用して原内閣が執行した第14回総選挙で大きく当選者を減らしたものの、第15回総選挙では失地回復に向かい、政友本党（第15回総選挙では、当選一名に止まった立憲政友会を圧倒し、憲政会と並ぶ三人を当選させていた）と合同して立憲民政党として臨んだ第16回総選挙以降は、一九二八年の床次竹二郎の民政党脱党以後も変わらず一貫して立憲政友会を圧倒していた。なお、史料31は、若槻礼次郎が、床次脱党に関する所感を渡部寛一郎に率直に伝えたものとして興味深い。

その第16回総選挙は普通選挙制度に基づく最初の総選挙であったが、立憲政友会田中義一内閣の執行した総選挙でありながら（従って、全国の知事・警察機構を動員した与党に有利な選挙運営＝選挙干渉がありながら）、政友会と民政党の当選者数が拮抗するという、事実上民政党の勝利というべき結果となった。この選挙結果が判明した直後に若槻礼次郎が渡部寛一郎に送った二月二三日付の書簡（史料29）は、この時の若槻礼次郎の政治的興奮をそのまま伝えている。若槻が「島根県第一区、民政党ノ全勝ト相成」と書き送ったように、島根県第一区は、定員3を民政党が独占し、第二区も民政党は一議席を獲得していた。その若槻の興奮は、同じ書簡に記された漢詩に端的に表現されている。

又追政戦上飈車。雪夕霜晨説国家。休笑痩駘作獅吼。唯期普選発精華。

選挙戦において、二月の厳しい寒気の中を終日「国家を説き」、痩せた身ながら獅子吼したのは、ただ最初の普通選挙の精華が発揮されることを願ったからである、というこの詩は、「詩人」から見れば「餘リ露骨ナル様子」と評され、

追他角逐上飈車。説遍遠邇都鄙家。梅雪扶吾獅子吼。選良時節発精華。

と改作するよう助言されたという。しかし、それでは「小生ノ真意ト遠カリ、面白カラス」、「平凡ノ詩」となると若槻が書き送ったところに、漢詩が政治的真意を率直かつ具体的に表現できる文学作品であることが端的に示されていると言えよう。これが指摘すべき第三点である。

第四に、史料26・史料27は、この最初の普通選挙制による総選挙に先立つ一九二七年一〇月に若槻礼次郎が松江に帰った際、渡部寛一郎から受けた厚遇に対する礼状であるが、この若槻の帰県（所謂「お国入り」）に合わせて、立憲民政党島根支部創立大会が開かれていた。若槻礼次郎のこの帰県時の動静を追跡・検証すると、内閣総理大臣経験者という立憲民政党勢力の重鎮が出身県で有している政治的求心力とともに、剪淞吟社に属する漢詩人としての文化的人脈の厚みを確認することができる。今、これについて『山陰新聞』[2]が報ずる所を摘記すれば次のとおりである（以下紙名『山陰新聞』と年一九二七年は省略し、発行月日を10・20と表記する）。

一九二七年一〇月

一七日　午後六時五二分、松江駅着　帰松（10・18）

一八日　「帰郷率賦」二首の中一首「楓葉萩花秋正央。故園有待水雲郷。帰心豈為蓴鱸切。別有江山不得忘。」（10・18）

朝から、昌厳寺（竪町）で生家奥村家の墓参。桐光寺（雑賀本町）で恩師含齋澤野修輔の墓参。極楽寺（新町）で岡崎運兵衛の墓参。常教寺（寺町）で先代佐藤喜八郎の墓参。有澤山荘で休憩後、「憲克倶楽部」に立ち寄る（10・18夕刊）

午後三時三〇分　望湖楼にて剪淞吟社主催の若槻礼次郎歓迎詩話会（10・19）

「望湖楼克堂公歓迎雅集柏梁体聯句」は、桃蹊渡部寛一郎の「詩酒交歓又昏黄」に始まり、克堂若槻礼次郎の「山陰未必譲山陽」で結ぶ四三人の七言句が詠まれた。廻瀾谷口為次、市長の菊径高橋義比らも参加（10・19夕刊）

一九日　田原神社を遙拝。同社前の記念塔は第一次若槻内閣当時に揮毫したものという。桐岳寺にて信太淞北の墓参。松江中学校、母衣小学校、松江高等女学校、白潟小学校で講演・訓話（10・19夕刊）

午後、雑賀小学校、雑賀青年連盟総会で講演（10・21）

午前九時三〇分、天守閣前にて克堂会総会、「参会者二千余名」会長・佐藤喜八郎の挨拶（10・20夕刊）

二〇日　午前一〇時五〇分　同じく城山で立憲民政党島根支部発会式挙行。若槻礼次郎、床次竹二郎顧問ら出席、支部長は佐藤喜八郎、副支部長は香川善九郎・岡本俊人。（10・20夕刊）

午後、松江座・出雲劇場にて民政党政談演説会、若槻礼次郎・床次竹二郎ら登壇（10・21）

午後七時、松崎水亭にて立憲民政党島根支部創立祝賀会。若槻礼次郎・床次竹二郎ら出席（10・21夕刊）

二一日　若槻礼次郎・床次竹二郎ら出雲大社参拝。宍道駅に簸川郡大津村の板倉隆治ら出迎え（10・21夕刊）

出雲大社参拝。大津村・山田邸で昼食後、教員を務めた大津小学校で講演、平田を経て稗原村・高橋隆一宅に投宿（10・22）

二二日　出雲製織視察、大念寺にて代議士・前簸川郡農会長の高橋久次郎追悼会に参列、今市高等女学校で訓話（10・22夕刊）

午後零時半、簸川会館にて官民合同歓迎会。終了後、一時半より今市小学校校庭にて、二千四百余名が参加して簸川郡克堂会大会開催。板倉隆治幹事長の開会の辞、高橋隆一克堂会長の歓迎文を採択、若槻礼次郎の演説あり（10・23）

二三日　午前、能義郡広瀬町・広瀬小学校で訓話。その後、洞光寺で官民合同歓迎宴に出席し、午後、米子市角盤町・昭和劇場にて立憲民政党鳥取県支部西伯日野部会総会に出席。午後七時半、能義郡安来町・瓢屋別荘にて、安来町外十一か町村有志及び安来町克堂会（新会長は並河秀雄。10・25に記事）主催の歓迎会に出席（10・24）

二四日　浜田着。浜田中学校、浜田女子師範学校で訓話。俵孫一別邸で休憩後、末広座で開催された立憲民政党島根支部那賀郡部会発会式、那賀郡俵後援会発会式に出席。その後、政談演説会、歓迎会（八満登座）、特別歓迎会（公会堂）に出席。（10・25）

二五日　津和野町、益田町で政談演説会後、松江にもどる予定と報道（10・25）

二六日　朝、松江出発、倉吉、鳥取市に向かう（10・26夕刊）

このような若槻礼次郎の帰県活動に対して、渡部寛一郎は彼を鳥取市まで出迎え、数日にわたって行動を共にしたが、その状況を次のように「日記」に記している。

（一九二七年一〇月）

一七日　曇、午前八時卅分松江発、克堂君ノ迎ノ為鳥取迄

一八日　晴、午前洞光寺ニテ克堂君待受、同行シテ矢島先生墳墓、岡崎氏、佐藤氏墳墓ニ参詣シ、夫ヨリ直ニ有澤山荘ニ同行シ午餐ヲ喫シ、帰途憲克倶楽部ニ立寄、夫ヨリ望湖楼ニテ開催ノ吟会ニ同席シ、深更帰宅

一九日　■晴、午前ヨリ同行シテ田原神社ト淞北氏墓ニ参詣、夫ヨリ中学校、高等女学校、母衣小学校ヲ参観シ、一旦皆美館ニ至リ、午餐ヲ喫シ、了テ雑賀小学校ト賣豆紀神ヲ参拝シ、夫ヨリ城山ニ於ケル歓迎場ニ出席、帰途皆美館ニ立寄帰宅

廿日　快晴、午前克堂会惣会ト立憲民政党島根支部発会式ニ出席、正午過帰宅、喫飯

廿一日　晴

廿二日　晴　（此間克堂）

廿三日　晴

廿四日　晴　午前八時松江発、大田午餐、浜田着一泊、克堂君ト同伴

廿五日　晴　午前八時浜田発、津和野午餐、帰途益田立寄、八時卅分帰松

廿六日　晴　午前八時卅分発、汽車ニテ克堂一行ヲ見送リ、米子ニ至リ、別ヲ叙シ、夫ヨリ林米子高女校長案内ニテ学校参観、同校ニテ午餐ヲ喫シ、夫ヨリ錦公園等参観、午後二時五十分米子発、汽車ニテ帰松、偶然ノ関係ヨリ終始弾箏師坂口旭江女史ヲ同伴セシハ奇縁ナリキ

廿七日　晴、黄昏微雨、午前田中氏来訪、尋テ竪町永見氏来訪、午后外出、都田方ト憲克倶楽部、皆美館歴訪、克堂君歓迎之際依頼セシ揮毫用絹紙類始末シタリ、一旦帰宅、更ニ外出、高橋氏方往訪、偶井川氏ト同席、暫ク談話シテ帰宅

若槻礼次郎が史料26の書簡で、「昨日ハ態々御見送被下」たことを感謝し、「特ニ今回ノ帰県中、一方ナラサル御厚意ニ預」ったことに対して礼を述べているのは、右のような渡部寛一郎の同行活動に対してのものであった。

なお、立憲民政党島根支部の発会式および克堂会総会の状況については、『山陰新聞』と立憲民政党機関誌『民政』が、それぞれ報じている。(3)

若槻礼次郎の動静を逐一伝える『山陰新聞』のこれらの記事は、県出身の前内閣総理大臣の帰県が、県内各地域における立憲民政党の地域組織と若槻礼次郎の個人後援会である克堂会が形影重なり合いながら組織され、活性化されていく様を如実に示している。同時に、漢詩人若槻礼次郎の帰県が、山陰の漢詩結社剪淞吟社と県内漢詩人を結集し、その交流・交歓の中で詩作が行われていることを示している。また、教員として出発した若槻礼次郎の場合、松江市内に止まらず、訪問先のそれぞれの地の小学校・中学校・女学校・師範学校等で講演・訓話を行っていることも特徴である。

官僚出身の政党政治家であり、漢詩人である若槻礼次郎の政治活動

と詩作・揮毫の跡は、例えば前述の簸川郡大津村の板倉隆治家[4]（現出雲市大津町の板倉吉彦氏・好子氏宅）に残された文書群の示すところである。本プロジェクトでは、こうした県内各地に遺存する文書群の調査も進め、「近代山陰地域の漢詩と官僚出身政治家の文化教養環境」の実態を具体的に明らかにすることをめざしている。

【注】

（1）この第12回総選挙に際して、内務大臣として猛烈な選挙指揮＝選挙干渉を行った大浦兼武は、一八九三年から一八九五年の間、島根県知事であった。

（2）一八八二年創刊の『山陰新聞』は、自由党―立憲政友会系新聞として同志会・憲政会・立憲民政党系新聞である『松陽新報』に対抗していたが、若槻礼次郎帰県時の報道を見ると、例えば「民政党支部創設を祝す」と題する次の「論説」に見られるように、極めて好意的な姿勢が見て取れる。

今日を以て、立憲民政党島根支部の発会式を挙ぐるの盛挙を見るは、新時代に適応したる、主義主張を標榜して天下に呼号し、最も新しくして、最も国民生活に即したる政治実現のために貢献しつゝある、民政党の党勢の日に盛なるを物語るものとして且つは我が地方の政治的地盤、これよりいよ〳〵鞏固なるべき首途として、これを慶祝せざるを得ないのである。

（『山陰新聞』一九二七年一〇月二〇日）

（3）立憲民政党島根支部発会式については、『山陰新聞』一九二七年一〇月二〇日付夕刊が、宣言・決議・役員人事と若槻礼次郎の演説、床次竹二郎の祝辞を、同一〇月二一日付が規約を報じており、『民政』第一巻第一〇号（一九二七年一二月）も「島根県支部発会式」記事を掲載し、役員人事、宣言、決議を報じている。克堂会総会については、『山陰新聞』一〇月二〇日付夕刊がその状況を報じている。

（4）板倉隆治（一八七九～一九六〇）は、板倉家第一二代、早稲田大学を卒業し、島根県会議員、一畑電鉄社長等を務めた。一八八二年、大津小学校に訓導として赴任した若槻礼次郎は、同家に下宿して通勤したと伝えられている（板倉好子氏のご教示による）。

（竹永三男）

翻刻　渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡（続）（渡部寛一郎文書研究会）

〔翻刻　渡部寛一郎宛若槻礼次郎書簡　昭和期分〕

25　昭和二年十月五日　2-1-32

拝啓。此中御眎相成候高作ニ対シ、次韻ノ悪詩ヲ草シ、国府犀東ノ是正ヲ求メ候処、同氏ヨリ別紙ノ如キ好詩ヲ寄セラレ申候。拙作ト共ニ左右ニ呈シ候。御笑覧被下度候。　匆々敬具

十月五日　　礼次郎

桃蹊先生　侍史

【消印】牛込2・10・5

【封筒表】松江市雑賀新丁　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】東京市本郷区上富士前町百二十九番地　若槻礼次郎

［詩箋］　2-1-33-1

嶼樹湖雲不点埃。画楼晩可共傾盃。蕉風梧雨草堂夢。飛向故山曽幾回。

次桃蹊翁寄懐詩瑶韻

丁卯十月初五　　克堂（花押）

＊右に同封されたものと推定される

参考　**昭和二年十月四日付国府犀東詩箋**　2-1-33-2

＊25に「別紙」とあるものにあたる。

金虀玉膾自無埃。小洞庭辺舫似盃。鱸酒不邀前閣宰。詩天相国領閒回。

詩入水郷先絶埃。故園為客不辞盃。酔中首相曽無敵。傾尽松江美酒回。

克堂前相国将帰省淞上。次与桃蹊翁賡和瑶韻呈二首。仰郢削。

丁卯坤月初四　　犀東種徳初艸

26　昭和二年十月二十七日　2-1-18

拝啓。昨日ハ態々御見送被下、難有感謝申上候。特ニ今回ノ帰県中、一方ナラサル御厚意ニ預リ候段、重テ深ク御礼申上候。手ヲ分ツニ臨ミ、御眎被下候高作、敢当ヲ不申候得共、御友情ハ感銘仕候。汽車中ニテ瑤韻ヲ攀、巴調相試申候。未定稿ノ儘、貴覧ニ供シ候。御一粲被下度候。　匆々敬具

十月廿七日　　礼次郎

桃蹊先生　坐右

将発松江。次桃蹊翁送別詩韻。似郷人。

満喫人間郷味真。駅頭感極涙先新。誰言世上多冷血。何識熱情温我身。

【消印】京都2・10・28

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】京都市上京区麩屋町　柊家旅館　【自署】「若槻礼次郎」

電話　中　特長　三六番　長四八七〇番　四八七一番

自動車部専用四八七二番

支店　東京市麹町区内幸町一ノ三

電話銀座　特長　四一四番　長二二七九番

27　昭和二年十一月初め頃【封筒なし】　2-1-47

拝啓。今回帰県中之御厚意ニ対シテハ、鳥取ヨリ謝意申述置候得共、茲ニ重て御礼申上候。帰県中之拙作、犀東氏ノ添削ヲ得タル結果、結局左ノ通ニ致申候。少々原意ヲ損シ候得共、詩トシテハ已ムヲ得スト存候。

次渡部桃蹊先生寄懐詩瑶韻

嶼樹湖雲不点埃。画楼晩可共傾盃。蕉風梧雨草堂夢。飛向故山曽幾回。

帰郷率賦

楓葉荻花秋正央。風煙依旧水雲郷。帰心豈為蓴鱸切。別有江山不得忘。

故旧来迎快客心。歓呼四起感何禁。碧雲湖上接天水。孰若郷人情意深。

剪淞吟社雅集席上。率賦。

詩友携登旧酒楼。啣盃笑対故園秋。碧湖佳景点晴好。一抹青松新婦洲。

同分韻得青

豈翅詩筵簇景星。白雲紅葉四成屏。奚嚢却満半湖碧。不恨楼前無柳青。

同次桃蹊翁韻

不願青雲願臥雲。水楼好奏酒中勲。満盤郷味蓴鱸在。快飲湖天欲夕曛。

稗原村訪高橋隆一君、宿其家。

周文乎又雪舟乎。林園泉石似画図。一酔陶々画中睡。此時胸裏点塵無。

石州客次。次桃蹊翁見眎詩韻。

把臂新知又旧知。慇懃相見両心披。匆忙愧我負名勝。鏡嶽促詩無好詩。

同次右田朏洲翁見眎詩韻

交友何論達与窮。詩情酒味藹春風。欲将吟詠相終始。遙拝歌神柿本公。

将発松江。次桃蹊翁送別詩韻。

満喫故園情味真。駅頭分袂涙先新。桃花潭水深千尺。不及桃翁思我身。

28　昭和二年十一月四日　2-1-30

本月一日付貴書拝見致候。本月中ハ在京之予定ニ候得共、只今香川県ヨリ出張ヲ求メ来居候ニ付、如何ニスルヤ考慮中ニ有之候。含斎先生二十五年忌法要及遺族へ贈与ノ費用中ニ、乍少額別紙郵便小為替丈ヲ寄附致度、御査収被下度候。帰県中ノ作詩ハ取纏メ確定トシテ貴覧ニ供シ置候得シカ、尚左ノ一首ヲモ附加致申候。

観荒川嶺雪先生妙技。驚嘆之餘、呈蕪詩。

妙技阿誰争後先。快刀自在刻痕鮮。願将君奪天工力。破砕人間杜撰禅。【「破」を見消。右に「打」】

十一月四日　礼次郎

渡部寛一郎殿

【消印】駒込2・11・4

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　親展

【封筒裏】東京本郷上富士前町　若槻礼次郎

29　昭和三年二月二十三日　2-1-6

拝啓。其後、益々御健勝奉敬賀候。御声援之御蔭ニテ、島根県第一区、民政党ノ全勝ト相成、特ニ木村氏最高点ノ当選、誠ニ難有感謝罷在候。拙作次韻ノ高作ヲ賜ハリ、難有感吟致候。原作ハ、

又追政戦上颷車。雪夕霜晨説国家。休笑痩駘作獅吼。唯期普選発精華。

ニ有之候得共、詩人ヨリ見レハ、餘リ露骨ナル様子ニテ、左ノ如ク改作スル様助言ヲ受ケ候。小生ノ真意ト遠カリ、面白カラス候得共、平凡ノ詩トシテハ可然ト存候。

追他角逐上颷車。説遍遠邇都鄙家。梅雪扶吾獅子吼。選良時節発精華。【「発」を見消。右に「吐」】

孰レニスルモ、韻字ハ同様ニ候故、御和作ハ其儘ニテ頂戴致候。右御返答迄。　匆々敬具

二月廿三日　礼次郎

桃蹊先生　侍史

【消印】巣鴨3・2・24

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】本郷駒込上富士前町　若槻礼次郎

30　昭和三年三月二十一日　2-1-11

拝啓。益々御清安、慶賀之至存候。津森老人ノ死去、誠ニ痛惜ニ堪ヘス候。他日帰松スルモ、自ラ寂寥ヲ感セサルヲ得スト存候。小生本月五日ヨリ、当地ニ転地、来月之初、帰京予定ニ御座候。出発前即チ三月三日、駒込拙宅ニテ、例ノ三四ノ雅客ト小集ヲ催シタル時ノ唱和、及古風庵雑詠ニ対スル次韻等、別冊御晒覧ニ供シ候。小生当地ノ小廬ニハ、独立占古風ト東久世伯ノ揮毫セラレタル扁額ヲ掲ケ居リ、実際上、古風庵ト称スルコトニ致申候。一度御来浴被下度候。　匆々敬具

三月廿一日　礼次郎

渡部桃蹊先生　侍史

【消印】□□【静岡ヵ】□□3・21

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】伊豆伊東町　若槻礼次郎

31　昭和三年九月十一日　2-1-10

貴書拝読、益々御清祥慶賀之到ニ存候。七月末ヨリ、片瀬ニ転地、昨日帰京、貴書モ片瀬ニテ受取候様ノ次第、為メ返書延引、御寛恕被下度候。大倉喜七郎一行ニ対シ、雅筵ヲ開カレ候由、高興拝察致候。高作御垂示被下、感吟致候。拙作四五、末尾ニ附記、御晒覧ニ供シ候。昨今民政党ニ起リタル出来事、赤面之至ニ御座候。床次氏ノ脱党ハ、一日モ速カニ総理大臣ト為リ度希望ニ出テタルモノナルヘシト存候。但シ著キ態度ヲ以テ、著キ希望ヲ達セントスルハ、恐ラク結局失望ニ終ルナルヘシト存候。旧憲政系ノ二三氏ノ除名ハ、党規ヲ紊シタルニ依ルモノニ有之、政党カ志ヲ得タル時合ニ、如何ナル待遇ヲ与ヘラル、ヤニ、不安ヲ感スル人々ハ、往々ニシテ不平ヲ発スルモノニ有之、不平ノ色ヲ外部ニ現ハストキハ、政界ノ悪ブローカーハ、得タリ賢シト、其間隙ニ入リ、誘惑ノ魔手ヲ逞フスルモノニ御座候。今回ノ出来事モ之ニ類シタルコトナルヘシト存候。政友会内閣ハ、善政ハ之ヲ行フコト能ハサルモ、悪事ハ遠慮ナク之ヲ行フ内閣ニ御座候。但シ火事ハ間モナク落付可申ト存候。山崎庫助氏ノコト、面会致候コトハ、差支無之候得共、講演ハ御断リ致度、特ニ十月二十三四日頃ハ、伊豆ニ転地シ、東京ニハ居ラサルヘシト存候。内村先生ノ贈位ハ、庵モ望マシキコトニ有之、只今早速内務次官潮恵之輔氏ニ手紙ヲ発シ、其配慮ヲ求メ置候。先ハ右御返書迄、如斯御座候。　匆々敬具

九月十一日　礼次郎

渡部先生　侍史

負暄庵小集。以独間所匾日高睡足処為韻、賦五絶句。

交情澹々欣真率。来往休嫌環堵室。松籟催詩酒在樽。何妨酬唱留三日。

興逸揮毫意気豪。涼辺呼酒且持螯。賓皆後楽先憂士。大策論来著眼高。

小廬占此閑天地。詩酒好忘塵俗事。欄角更移竹榻来。松風翠処吹酣睡。

潮痕消得炎威酷。飽領晩涼須剪燭。詩就欄頭一々吟。酔餘吾亦添蛇足。

霄漢志消身世忤。煙波浩蕩同鴎去。故人応有好詩成。為寄日高眠足処。

【消印】小石川3・9・11

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】本郷上富士前町　若槻礼次郎

32　昭和三年十一月六日　2-1-2-3

拝啓来八日出発、京都行、左記ニ滞在致可申候。

衣棚通丸太町上ル
杉本徳治郎氏方
若槻礼次郎

【消印】小石川3・11・6
【葉書宛名】松江市新雑賀町　渡部寛一郎殿
【葉書印字】銅像除幕式記念　故加藤伯銅像建設会
浪越写真工藝社印行
【葉書裏面写真説明】大勲位伯爵加藤高明君

参考　昭和三年十一月十日　渡部寛一郎漢詩　2-1-45

東山紫翠迎京輦。艮嶽青蒼護禁宮。天子万年登極典。龍飛鳳舞五雲中。

昭和戊辰登極大典紀盛

桃蹊学人寛

【落款】「貌字子夏」「号桃蹊」

33　昭和四年三月二十九日　2-1-19

拝啓。益々御清祥、慶賀此事ト存候。陳者、此中御紹介相成候人、過る日来訪致候得共、丁度議会閉会日ノ前後ニテ、最多忙ノ時ニ際シ居リ候為メ、面会致不申候。用件ハ御手紙ニ記載有之候故、別ニ面会スルヲ要セスト存候。全ク近頃ノ施設ト見ヘ、余リ聞及居ラサルモノニ有之、若シ真面目ニ経営シ、相当成績ヲ挙ケ居ルモノニ候ハヽ、百円位寄附スルコトハ、差支無之候得共、他ニモ寄附者多ク、寄附金ノ総額一万円以上トナリタルトキハ、右百円寄附可致、自然何等カ御話相成ラサルヲ得サルコト有之候ハヽ、右小生ノ意中、御話被下候テ差支無之候。喜字之御齢、慶祝申上候。別紙御哂正祈上候。　匆々敬具

三月廿九日　礼次郎

渡部先生　侍史

【詩箋】【関防印は「索笑」。押脚印は「礼印」、「克堂」】

遙想松江賀宴新。詩成自寿筆無塵。称君七十還添七。花笑幽蹊桃李春。

賀渡部桃蹊先生喜字齢。次其自寿詩韻。　克堂礼

【消印】小石川4・3・29
【封筒表】松江市雑賀町新土手　渡部寛一郎殿　侍史
【封筒裏】本郷上富士前町　若槻礼次郎

34　昭和四年七月二十四日　2-1-38

去廿日付貴書、東京留守宅ヨリ転送シ来リ、只今拝見致候。益々御清適、慶賀之到存候。小生、本月十七日ヨリ、妻ト共ニ避暑転地、当負暄庵ニ滞留罷在候。御承知ノ大江香峰君、先般北海道鉄道局長ニ栄転シ、一旦赴任致候得シカ、家族引纏ノ為メ、二十五日帰京、月末迄滞京致候由ニテ、其間一日当庵ニ於テ、同人五六名相会シ、送別旁々、詩会相催候筈ニ存候。其節、御来訪被下候ハヽ、面白カルヘシト存候。但日時未定ニ候所（多分二十八日頃ナルヘシ）、只今確定的ニ御案内申上兼候。兎ニ角、御出京相成候ハヽ、一日当地ニ御出浡之上、半日ノ間談ヲ交換致度、不堪切望候。己巳夏日偶成之高作、面白ク感吟致候。先ハ右御返書旁々、如斯御座候。　匆々敬具

七月廿四日　礼次郎

桃蹊先生　侍史

【消印】神奈川□□【片瀬か】4・7・25

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】相州片瀬西濱　若槻礼次郎

35　昭和四年夏　【若槻自詠漢詩集稿『忙中閒草』等により推定】　2-1-46

冒暑庭前学槖駝。芟除雑草伐交柯。好聞松籟涼如水。偶有閒荘雅客過。

負暄庵雑詠之一　　克堂

【関防印「雪争光」。押脚印「若槻礼印」、「亦復」】

36　昭和四年十月十六日　2-1-15

貴書拝読。益々御清祥、慶賀之至存候。山陰大詩会ノ高作拝吟、韻字誠ニ好ク御使用、敬服申上候。小生、大任引受クルコトニ決意、私カニ其大膽ナリシコトヲ感シ居申候。只々最善ヲ尽サント心懸ケ申候ノミニ御座候。出発ノ日御問合ニ候処、十一月三十日頃ナルヘクト存候。但シ事情アレハ、変更致可申候。出発ノ日ハ、大抵新聞紙ニ記載可致ニ付、之ニ依リ御承知可被下候。帰県ハ予定無之、但シ来年三月中カ、遅ク共四月ニハ、帰国可致ト存候。右御返答迄。　匆々敬具

十月十六日　　礼次郎

渡部寛一郎殿　侍史

【消印】駒込4・10・16

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】本郷上富士前町　若槻礼次郎

参考　**昭和五年二月一日**　若槻徳子発渡部寛一郎宛書簡2　2-1-49

厳寒の砌、折柄御一同様ますます御機嫌よろしく御起居被為在、めで度存じ上候。陳者、此度ハ御親切なる御書状、并ニ結構なる玉子焼、御送り頂き、御厚意深御礼申上候。あつやきハ少々かたく、老人の口にハ合かね候も、此度頂き候玉子焼ハ、望湖楼の産、やわらかに、そして大層美味ニ頂戴致し候。老人殊の外、気に入り、賞味申上居候。田原、并ニ妹の内等ニ、福わけ、共々ニ御厚意と共ニ、一しほ美味ニ頂戴致し候。取あへず御礼申上度、尚お寒気殊の外きびしき昨今、別して御自愛之程、祈上候。　早々かしこ

二月一日　　徳子

渡部様

【消印】小石川5・2・2

【封筒表】島根県松江市新雑賀町　渡部寛一郎様　御礼

【封筒裏】東京本郷上富士前町　若槻徳子　二月一日

37　昭和五年九月二十日　2-1-23

貴書拝読、益々御清適、奉敬賀候。陳者、御問合之件、本月三十日夜、汽車ニテ出発途中、城ノ崎一泊、十月二日午后五時四十分、松江着ニテ帰郷致候予定ニ御座候。今回ハ拙家先祖ノ供要ヲ営ムコト一ノ日程ニ御座候得共、其以外ハ只今取極メ候コト御宥恕被下度候。古中秋（十月八日ニハ無之、十月六日ト存候）観月筵ニ出席スルコトハ、小生モ望ム所ニ候得共、日程之ヲ許スヤ否ヤハ、諸方面ト打合ハセタル上ニアラサレハ、何トモ難申、孰レ松江ニテ御目ニ懸リタル後、相

定メ可申候。朝鮮ニ於ケル高作、感吟申上候。蜂腰紙尾ニ記載致候。
御斧正祈上候。　匆々敬具
九月廿日　　礼次郎
渡部先生　侍史

将回郷

山陰風物最関情。回首年々減旧盟。入夢家郷嗟老大。吹秋霜鬢笑平生。碧鱸可鱠呉中美。緑酒欲斟淞上精。欽仰天恩賜閒適。夫妻相伴旅衣軽。

【消印】〔　〕9・21
【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史
【封筒裏】本郷上富士前町　若槻礼次郎

38　昭和五年十月二十二日　2-1-27

拝啓。益々御清適、奉敬賀候。陳者、先般帰県之節ハ、種々御厚意ニ預リ、感謝申上候。早速御挨拶可申上之処、帰来腰痛ヲ起シ、昨日迄臥床罷在候様ノ次第、為メニ遷延相成、申訳無之、御寛恕祈上候。茲ニ改メテ御礼申上度、如斯御座候。　匆々敬具
十月廿二日　　礼次郎
渡部先生　侍史

高橋菊径氏ニ宜敷御伝言願上候。

途上ノ詩作、吟友ニ相談シ、訂正シタル所モ有之候ニ付、左ニ改記致候。御哂正、祈ル所ニ候。

将回郷有作

山陰風物最関情。回首年々減旧盟。入夢家郷嗟老大。吹秋霜鬢笑平生。碧鱸可鱠呉中美。緑酒欲斟淞上精。欽仰天恩賜閒適。夫妻相伴旅衣軽。

城崎温泉。贈西村前町長。

災後経営功徳存。東阡西陌列高軒。城崎街市改其視。永記当年里尹恩。

山陰途上

火輪一過大山陰。四顧峯巒喜客心。知是松江途不遠。駅亭人語帯郷音。

到松江

迎我歓呼動四隣。真情恰似倚門人。水郷雲色衣襟爽。故旧温存秋亦春。

湖楼会飲（松崎小亭）

煙波縹緲美人洲。蓼岸蘆汀旧酒楼。占得淞江千万頃。今年不負碧鱸秋。

島影湖光酒一觴。蓴羹正美碧鱸香。水亭記取漁洋句。秋到呉淞思故郷成句。

水閣邀吾話旧時。湖山当面画図披。并州刀在諸賢手。剪取秋光好入詩。

古中秋。臨水亭観月。

只合涓埃答聖明。敢求竹帛記功名。中秋偶見故郷月。冊載曽無今夜情。

臨水亭雅集。分韻得虞。

臨水吟詩倒酒壺。碧雲湖似錦秋湖。郷情難忘呉淞景。不啻垂虹亭下鱸。

古中秋後、一夕泛舟碧雲湖。

金風玉露正中秋。載酒碧雲湖上舟。酔後興情騎鶴想。恍然疑是到揚

州。

出雲大社

翠色滴堵松樹森。崇祠煥儼傍雲岑。推誠稽顙拝神徳。恍聴天風奏玉琴。

石州太田

蕎麺盛来情味存。欲浮大白倒青樽。山陰双美能娯客。昨接大媛今小媛。

浜田率賦

欧西半載役身還。心与蘆鴎共欲閒。当面霊山名喚鏡。愧将衰鬢対孱顔。

玉造。次桃蹊翁所眎旧交会席上詩韻。述感。

時会故交文墨親。松南長老興情新。誦君詩句使吾感。先考今年方八旬。

屋島懐古

読史曽暗【当に諳に作るべし】屋島名。我来懐古感頻生。源家大将膽如斗。先壓平軍千万兵。

幾度渚禽驚平軍。一朝春夢落寒雲。古来成敗依時勢。壇浦秋深日欲曛。

鞍馬山

鞍馬山深鬼処区。老杉鬱々径縈迂。如今天狗向京去。僧正渓頭隻影無。

宇治採松簟

松翠稲黄秋色長。閒人清福在壺觴。松江鱸膾貪郷味。洛外今還賞簟香。

【封筒不一致】【消印】牛込13・8・□8

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史【異筆で】「十三年八月」

【封筒裏】牛込砂土原町一ノ一　若槻礼次郎

39　昭和五年十二月二十七日　2-1-39

貴翰拝誦、御微恙之由、御摂養速カニ御平癒祈ル所ニ御座候。御逗留中、何レノ日ニカ粗餐差上度ト存居候得共、年内ハ余日無之、一月ニ入レハ、未確定ニハ候得共、元日又ハ二日ニ伊東古風庵ニ赴キ、十八九日頃迄滞在スルコトニ致度ト存候故、自然、其後ニアラサレハ、時日無之、孰レ御都合相伺可申候。尤も是レハ民政党ニ於テ、何等用事無之モノトシテ申上候コト有之、何分、議会開会中、而カモ首相療養中ノコトニ候ニ付、如何ナル事故ノ為メ、小生ノ自由ヲ妨クルニ到ルヤ難測、御含置被下度候。高作感吟致候。御需ニ依リ、拙作二三首、末尾ニ書認メ候。御哂正、奉願上候。　匆々敬具

十二月廿七日　　礼次郎

渡部桃蹊先生　侍史

昭和五年十二月二十五日拝多摩御陵

湘南一夜暮潮哀。龍駕昇天遂不回。今日多摩陵下路。石堵已見点蒼苔。

辛未元旦

索笑庵前春入庭。梅花已放両三星。迎年偏喜児孫共。去歳旋疑独不齢。

恭賦御題社頭雪

祠前来稽顙。天地瑞光多。風動松翻雪。雲晴日浴波。賢臣賛声教。民庶頌昭和。欣聴稚童唱。洋々君代歌。

【消印】巣鴨5・12・28
【封筒表】市外駒沢町深江【江は沢の誤りか】一〇八　矢田長之助氏内
渡部寛一郎殿　侍史
【封筒裏】本郷上富士前町　若槻礼次郎

40　昭和六年一月十四日　2-1-44

次桃蹊先生見寄詩韻、以答。
渓雲澗水俗塵疎。貪読田園種樹書。却訝機心猶未息。閒窓時夢北溟魚。
昭和辛未一月十四日
於伊豆古風庵　克堂　【落款印】「禮印」「克堂」

41　昭和六年一月十八日　2-1-21

新年芽出度御加齢、奉敬賀候。此中御来訪被下候由、不在ノ為メ、誠ニ無風情、御詫申上候。小生共十五日夕刻帰宅致申候。来ル廿一日、午后四時頃ヨリ、御来車被下、宜敷哉。同日ハ牧野鐵篋氏ニモ案内可致ニ付、詩話旁々、粗餐ヲ共ニ致度、御都合如何、御一報相煩ハシ度ト存候。高作ハ真情ヲ吐露シタルモノニ存候。感吟数回、敬服申上候。右得貴意候迄。　匆々敬具
一月十八日　礼次郎
渡部桃蹊先生　侍史
【消印】駒込6・1・18
【封筒表】市外駒沢町深沢新町　一〇八矢田長之助殿方　渡部寛一郎殿侍史
【封筒裏】本郷上富士前町　若槻礼次郎

42　昭和六年一月二十一日　2-1-43-2

索笑書屋、邀桃蹊、鐵篋両先生。喜賦。
邀得双星歓語同。酔顔紅映夕窓紅。巡簷未見梅花笑。春在賡酬鼎座中。
辛未一月念一　克堂　【落款印】「礼印」「克堂」

43　昭和六年一月二六日　2-1-26

拝啓。益々御清適、奉敬賀候。先日ハ折角御光来被下候得シニ、何之風情モ無之、御気ノ毒ニ存上候。同日分韻ノ詩、左之通リ候。哂正祈上候。　匆々敬具
一月廿六日　礼次郎
桃蹊先生　坐右
席上分韻得麻　鐵篋
来叩渓頭高士家。天寒竹外一枝斜。不妨索笑梅唇晩。遣興坏中眼已花。
得灰　克堂
其一
凹谷道人詩剪栽。淞浜仙叟意悠哉。薄餐留客小廬夕。笑指吹香籬落梅。
其二
品座晴窓酌緑醅。閒談自有感懐催。去年今日龍城裡。烟霧深辺軍議開。
【消印】麹町6・1・26
【封筒表】市外駒沢町深沢一〇八矢田長之助殿方　渡部桃蹊先生　侍史
【封筒裏】本郷上富士前町　若槻礼次郎

参考　**昭和六年五月二十四日**　若槻徳子発渡部寛一郎宛書簡３　2-1-2-2

大好物の御祝、沢山ニ頂き、丁度自邸ニ集り居候時ニて、早速三家にて賞味申上候。厚御礼申上候。　早々かしこ

五月廿四日　朝十一時

【消印】駒込6・5・25

【葉書宛名】島根県松江市　新雑賀町　渡部寛一郎様

【葉書差出】本郷上富士前町　若槻内

44　昭和七年一月三十一日【複写】　2-1-3

拝啓。益々御清適、奉敬賀候。陳者、佐藤武一郎ト申候人ヨリ別紙ノ如ク書状差越サレ申候。小生、佐藤武一郎氏ノ如何ナル人ナルヤヲ承知不致候故、同氏ニ返書差出候コトハ差控ヘ度、但シ、今回佐藤喜八郎氏カ立候補セラレサリシハ、小生ハ佐藤家ノ為メ、寧ロ之ヲ可トスルモノニ有之候。前選挙ニ於テ、佐藤氏カ出馬セラレ候節ハ、小生倫敦会議出席中ニテ、何等相談ニ与カリタルモノニ無之、若シ小生ニ相談セラレ候ハヽ、必ス之ヲ差止ムル様、忠告致シタルナルヘク候。既往ノコトハ暫ク之ヲ措キ、今回佐藤喜八郎氏立候補セラレタリトシテ、当選ノ見込アルヤニ付、関係地方人ノ意向、伝承スル所ニ依レハ、佐藤氏ハ当選後、選挙区ニ対シ、代議士トシテ普通何人モ注意スル報告、挨拶等、殆ント之ヲ為シ居ラレサル為メ、選挙民ノ佐藤氏ニ対ス感情面白カラス、当選スル丈ケノ投票ヲ得ルコト、殆ント六ケ敷カルヘシトノコトニ有之、特ニ第二区ニ於ケル佐藤氏ノ立場ハ輸入候補ノ姿ニ有之候ニ付、自然費用モ多額ヲ要スヘク、今日ノ佐藤家トシテ此上ニ負債ヲ増加セラルルコトハ、決シテ其幸福ニハ無之ト存候。世間ニハ小生共カ資金ヲ作リテ、候補者ヲ推立ツルモノト想像シ、佐藤氏ノ為メニ之ヲ為ササルハ、不人情ノ如ク思惟スル者有之候様ニ候得共、各候補者ニ対シ民政党ヨリ若干ノ補助ヲ為スカ為メニ、党ニ浄財ヲ集ムルコトニハ、小生共モ努力致候得共、各候補者ノ選挙ニ要スル費用全部ヲ調達スルコトハ、小生共ノ出来得ル所ニ無之故ニ、佐藤氏ニシテ出馬セントセラルルナラハ、其出馬ニ要セラルル費用ノ大部分ハ、自ラ調達セラレサルヘカラス。是レハ自ラ佐藤家ノ負債ヲ増スモノトナラサルヲ得スト存候。尚又、今回佐藤氏立候補セラレサルニ付テハ、佐藤家ノ為メ何等カ安定方法ニ付、腹案アリヤトノ問合ニ候処、過日山根観市氏出京ノ際モ右様ノコト相話サレ、小生ハ物質的ノコトハ小生共ニハ出来得ルコトニ無之モ、精神的ニハ同情致可申ト、申述ヘ置候得シカ、之レ以外ニハ何トモ致方無之次第、御含置被下度候。佐藤家トハ浅カラサル関係ヲ有セラレ候上ニ、小生ノ心中モ能ク御理解被下候コト故、貴下ニ右一応申上置候コト、可然ト存候儘、概略申上候。孰レ二月中旬ニハ松江ニ帰ルコトニ可相成、其節更ニ可申上候。　匆々敬具

一月卅一日　　礼次郎

渡部寛一郎殿　侍史

【消印】駒込7・2・1

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】東京本郷上富士前町　若槻礼次郎

45　昭和七年十月十七日　2-1-20

拝啓秋冷之候、益々御清適奉敬賀候。近来久敷御不沙汰申上、申訳無

之、偏ニ御寛恕祈上候。于時、村上琴屋ノ永眠ハ誠ニ痛恨事ニ有之、当時小生伊豆伊東町ニ滞在罷在、訃ヲ聞テ、愕然語ヲ発スル能ハサリシ次第ニ御座候。悼詩左記之通相試ミ申候。自然貴地ニ於ケル吟友ノ金玉少カラサルヘシト存候儘、貴覧ニ入レ、御哂正御願申上候。

匆々敬具

十月十七日　　礼次郎

桃蹊先生　侍史

悼琴屋村上君

秋天星墜寂吟壇。琴屋空聴清韻残。誰継并州快刀躅。呉淞江水碧雲寒。

【封筒不一致】【消印】駒込8・3・23

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】東京本郷上富士前　若槻礼次郎

46　昭和八年五月九日　2-1-24

貴書拝誦。益々御清勝、奉敬賀候。陳者、先便御哂正ヲ煩ハシ候拙作中、葛見神社老樟建碑之詩ニ関シ、神社名不明瞭ナルノ故ヲ以テ、御問合相成候処、神社ノ名ハ葛見神社ニ有之候。葛見【右傍「クズミ」】ト訓読可致ト存候。尚又、雑賀小学校創立六十周年ト相成候ニ付、高作御眎之上、次韻可致旨、御申聞相成、別記御笑覧ニ供シ候。御斧正祈上候。　匆々敬具

五月九日　　礼次郎

渡部桃蹊先生　侍史

賀雑賀小学校創立六十周年。次渡部桃蹊先生詩韻。

挾冊垂髫鬢已霜。喜見庠序発栄光。澤師先覚桃翁後。薫育高風賁我郷。

【消印】[　　]8・5・10

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】東京本郷上富士前　若槻礼次郎

47　昭和八年十二月八日　2-1-8

拝啓。益々御清祥、慶賀之至存候。陳者、御懇篤之御見舞、特ニ御同情之高作ヲ賜ハリ、感激致申候。尚又、御近作御垂眎被下、難有拝吟申上候。拙作御需相成、左ニ二三御目ニ懸ケ、御哂正奉願上候。　敬具

十二月八日　　礼次郎

桃蹊先生侍史

偶成

関心家国事。大計要無愆。歌己肯阿世。忘身唯畏天。蛩声秋在壁。雁影月過川。半夜孤牕下。繙書憶古賢。

昭和癸酉十一月念一日。書感。

葵心何敢顧斯身。空谷清渓皆蓋臣。唯願国家如富嶽。巍然一柱壮千春。（空谷浜口故首相雅号。清渓井上故蔵相雅号）

癸酉初冬古風庵雑詩之一

人間処世幾浮沈。月旦論詳同古今。山色渓声坡老懺。花明柳暗放翁吟。時度俊鶻窺機密。偶有長鯨躍海深。酔夢初醒小窓晩。松濤入耳作清音。

追而、例ニ依リ、少額剪淞吟社ニ寄附致度、金弐拾円郵便小為替券封入致置候間、御査収被下度候。

【消印】[　　]8・12・10

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史
【封筒裏】東京本郷上富士前　若槻礼次郎

48　昭和九年三月二十九日　2-1-7-1

拝啓。久闊ニ打過、申訳無之候処、貴書ニ接シ、難有拝読致候得シニ、文言ト云ヒ、筆勢ト云ヒ、少シモ御健康ノ損シタルモノヲ示ス所無之、益々御壮列之段、慶賀此事ニ存候。小生共夫婦共ニ肺炎ニテ、可ナリ苦悩致候得シカ、既ニ全快致候得共、医師ノ勧告ニ依リ、一ヶ月程東京ヲ離レ、世間ヲ忘レテ静養スル為、昨今当地ニ滞在中ニ御座候。転地以来略ゝ二十日ニ相成候処、両人共殆ント平常ニ復シ申候。乍他事、御休神被下度候。高作感吟致候。特ニ拙作ニ御次韻被下、難有存候。末尾ニ駄作二三記載、御哂正奉願上候。　匆々敬具

三月廿九日　礼次郎

渡部桃蹊先生　侍史

甲戌新年

仰見明時景運新。祥雲靉靆履端晨。九重有喜臣民慶。天降皇儲第一春。

病床雑詩之一

聞自三分到満開。暗香時透紙窓来。如今不似平生健。病臥床頭負古梅。

古風庵雑詩

節遅三月豆南春。桜未開唇柳未伸。独喜残梅無俗韻。山陰慰此養痾人。

連旬祈雨草将枯。樹葉黄乾及旧株。昨夜簷頭聴点滴。今朝無物不和愉。

不羨揚州騎鶴客、愛斯鶯鳥宿庭梅。禽兼梅樹原相得、鎮日綿蠻奏曲来。

【消印】静岡伊東9・3・30
【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史
【封筒裏】伊豆伊東町　若槻礼次郎

49　昭和十年八月七日　2-1-34

七月廿四日御認之芳簡、只今留守宅ヨリ転送、難有拝見致候。酷暑之砌、追々御軽快相成候由、何寄之コトニ存し、慶賀申上候。小生、去月廿二日以来、当地滞在、悠々自適罷在候。片瀬ノ別荘買却致候為、当地ニ別荘ヲ構フルノ余裕ヲ得候ニ付、今年春季ヨリ着手シ、小廬ヲ結フコトニ相成申候。富士山ハ面前ニ屹立シ、茅廬ノ仮山トシテ看ルコトヲ得、山中湖ハ眼下ニ在候。拙荘ノ庭池ニ代ヘ居候。空気ハ清涼、日中夏ヲ知ラス、此点丈ケハ大ニ人ニ誇ラント存候。山中湖ハ半月ノ形ヲ作シ居候故、詩人仲間ニテハ之ヲ半月湖ト称シ居候。依テ小生別荘ハ半月荘ト命名スルコトニ致申候。若槻ハ若月、即半月ニ有之候故、是亦命名ニ一意味ヲ与フルモノト存候。近什御需相成候ニ付、末尾ニ附記致候。御哂正奉祈上候。此上共、御自愛、御摂養之程、不堪切望候。　匆々敬具

八月七日　礼次郎

渡部桃蹊先生　侍史

山中湖畔別業

新構茅廬遺世情。炎塵不到午風清。窓含嶽拱長雲影。荘与湖同半月名。境僻雖貧魚膾美。山深毎聴螻蛄声。閒身飽領箇中趣。坐感天恩霑此生。

半月荘雑詩

無復蟲蟲襲枕辺。重衾閒夢翠雲前。吾廬不要時辰器。山鳥相呼覚暁眠。

枯枝乾葉影重々。為損茂林積翠容。倣得昔人曽洗竹。荘前我亦掃蒼松。

山影在湖人在船。瑠璃万頃碧漪漣。天風直自嶽巓落。満袖爽涼身欲仙。

【消印】不鮮明

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】山梨県山中湖畔　若槻礼次郎

50　昭和十一年一月二十六日　2-1-16

拝啓。益々御清祥、御迎歳相成候段、慶祝申上候。本年ハ異常之寒気ニテ、皆々閉口罷在候処、何之御障モ無之、吟詠御自適、何寄之次第ト存上候。小生、昨年十一月末ヨリ、風邪ニテ臥床。初ノ程ハ、格別之コトハ無之ト存候得シカ、中途ヨリ三十九度以上ノ発熱ヲ見タルコトモ有之、肺炎ト申ス迄ニハ無之候得共、肺炎類似ノ点マテニ相成、三週間許リ蓐中ニ呻吟シ、十二月廿五日ヨリ、伊豆伊東ニ転地、病後ノ静養ニ専心シ、大体快復、本月末、帰京ノ予定ヲ為シ居申候得シカ、衆議院解散ノ為メ、急ニ帰京ノコトヽシ、去廿三日帰宅致申候。右様ノ次第ニテ、新年ノ挨拶等、各方面ヘ失礼ノミ致居、恐縮罷在候。御垂示之高作、尽ク感吟致候。歳晩吟筵席上之作、最モ面白ク拝誦致候。早速牧野鐵篶君ニ転送致置候。新年之拙詩末尾ニ附記致候。御哂正被下候ハヽ、仕合ニ存候。　匆々敬具

一月廿六日　　礼次郎

渡部桃蹊先生　侍史

丙子元旦書懐

叨浴恩波海上鴎。七旬加一歳星周。老臣尤重昭和治。先拝東天頌帝猷。

盈科以進事随序。由径而行却誤期。苦戒児孫還自警。元朝依例賦新詩。

【消印】駒込11・1・27

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎様　侍史

【封筒裏】東京本郷上富士前町　若槻礼次郎

51　昭和十一年一月二十八日　2-1-28

拝啓。御高什、鐵篶氏ニ廻示致候処、別紙之通、申来候。来月ノ花香月影ニ登載スルコト、存候。一応御通報申上候。　匆々敬具

一月廿八日　　礼次郎

桃蹊先生　侍史

【別紙　牧野鐵篶書簡】

粛復。寒威凛烈之候、閣下愈々御清勝ニ被為渉、奉敬賀候。近来特ニ寒気を感し候為、古風庵より御帰京来、嘸々一倍御感し遊はすならんと存、江田君まて電話にて御機嫌御伺申上、益々御清穆と拝承し、安心仕候次第ニ候。御礼旁、拝趨仕度候へ共、寒さの折とて、乍勝手、失礼之段、御寛恕被下度候。桃蹊老先生之高作、態々御手を煩はし、御恵投を辱うし、難有拝手、御礼申上候。二月号拙集ニ掲載、光彩を添へ可申候。時下御自愛を祷候。　敬具

一月廿七日　　茂頓首

若槻克堂閣下　侍史

【消印】駒込11・1・28
【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史
【封筒裏】東京市本郷区駒込上富士前町　百二十九番地　若槻礼次郎

52　昭和十一年四月十一日　2-1-14

芳翰拝誦。益々御清福、奉賀候。高作拝吟、洒脱之雅懐、敬服之至候。御不自由ハ口頭ノミ、脳裏ト手先トハ、愈々敏俊ヲ加ヘラル、ヲ見、欣喜不過之候。小生去月十二日ヨリ、当地滞在、昨日牧野鐵篶来訪、谷口廻瀾子モ同行セラレ申候。尊書、昨日到達致居候ハ、、直チニ披露致候コトヲ得タルヘキモ、東京ヨリ更ニ転送シタル為メ、今朝始メテ落手、当庵ニテ共ニ感吟スルヲ得サリシハ、遺憾ニ存候。但シ本日鐵篶氏宛テ、廻送致置候。昨日、小集ニ於ケル拙作、左ノ通リニ有之候。

寒波似為我儔私。節序今年十日遅。四月中旬花爛漫。古風庵裏酌杯時。
誰是主人誰是賓。賦詩同賞野荘春。座中恨少遠洋子。鶯語聴来追懐新。【「懐」を見消。右に「憶」】

遠洋子ハ、御承知之通、湯河元臣氏ナリ。同氏カ始メテ古風庵ヲ訪問シタル時ノ詩ニハ、黄鸝ヲ取リ入レタルモノ多カリシナリ。今回ノ滞在中試ミタル拙詩ハ、別紙ノ通ニ有之、御哂正祈上候。呉々モ御摂養不堪切望候。　匆々敬具

四月十一日　　礼次郎

渡部桃蹊先生　侍史

【原稿用紙】

古風庵雑詩　　克堂

避寒追暖雪餘晨。来作古風庵裡人。三月豆陽真楽土。野花山鳥物皆春。
嗅得清香又到三。梅花相対古風庵。人間有此一仙境。容我酔中詩夢酣。
暁鶯啼樹隔晴霞。早起憑窓聴不譁。昨夜檐頭春雨静。一庭開遍瑞香花。
移樹引泉工漸成。林園面目一分明。苦心最是懸崖瀑。欲聴山荘夜雨声。
無復狂風払晩英。野梅村落気和平。渓魚趂暖従容泳。山鳥乗晴自在鳴。
山桜幾樹小橋西。弄笛何人過碧谿。微月春宵雲淡々。満身花影立沙隄。

次鐵篶道人春日雑興詩韻

野荘風物好。無夢到京華。洗耳前渓水。怡心曲渚花。暖煙浮海塹。春樹帯山霞。幽趣倶誰語。期君訪我家。

【消印】静岡伊東11・4・11
【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史
【封筒裏】伊豆伊東町　若槻礼次郎

53　昭和十三年三月十二日　2-1-50

拝啓。流行感冒ノ予後、養生ノ為一週前ヨリ、当地ニ転地。左在候処、只今、東京ヨリ、松江発ノ電報転送致来リ、姓ノミニテ、名前無之、聊カ困惑致候得共、桃蹊先生御永眠ノ電報ニアラズヤト、相察シ、不取敢、弔電差上申候。若シ間違ニ有之候ハ、、幾重ニモ御詫申上候。不幸ニシテ真実ニ候ハ、、悲痛之ヨリハ大ナルナキ次第ニ御座

候。先生両三年前ヨリ、御健康相勝レス、何分一日モ速カニ御平癒被為在度、祈リ居候得シカ、御養生不被為相叶、御逝去被遊候コト、何共申上様無之痛恨事ニ有之、御一同之御悲傷拝察、深ク御同情申上候。茲ニ改テ、謹テ御弔詞申上候。尚、乍少額、郵便小為替ヲ以テ金参拾円御送付申上候間、御霊前へ香花御供へ被下度、奉願上候。　敬具

三月十二日　　若槻礼次郎

渡部寛一郎殿

御遺族御中

【消印他】静岡伊東13・3・12　書留　静岡伊東113

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　御遺族御中

【封筒裏】伊豆伊東町　若槻礼次郎

54　昭和十三年五月下旬　　2-1-4

憶桃蹊渡部先生

儒林遠遡泗洙流。講学毓英功業優。修道館中桃一樹。三千弟子幾回頭。

昭和戊寅五月下澣

克堂　若槻礼【落款印】「礼印」「克堂」

【封筒表後筆】若槻礼次郎氏の追悼詩

参考　年未詳五月七日　若槻徳子発渡部寛一郎宛書簡4　　2-1-51

拝啓。春暖之好時節と相成候処、益御多祥奉賀候。陳者、此度ハ御心ニ懸させられ、御地産の甘鯛、沢山ニ御恵贈被成下、殊の外美味にして、朝夕の食膳にのぼせ、一しほ難有頂戴いたし候。新せんなる御魚ニ塩かげん等もことに御気を付させられ候事とて、特別の風味に御座候。其上一同の好物故ニ、大よろこひニ御座候。竹の皮にて御隔てくだされ、魚の味少々も変りなく、おいしく頂戴いたし候。主人よりもくれぐれもよろしく申上候。先ハ御礼申上度、如斯ニ御座候。　早々かしこ

五月七日　　若槻徳

渡部先生　御許ニ

【裏面鉛筆書】築地　精養軒へ　御投宿

【消印】東京中野14・10・4【封筒不一致か】

【封筒表】松江市新雑賀町　渡部寛一郎殿

【封筒裏】【印字】「若槻礼次郎」【手書】「内」

参考　年未詳封筒　　2-1-31

【消印】[　　]【7・11・2か】

【封筒表】松江市新雑賀　渡部寛一郎殿　侍史

【封筒裏】本郷上富士前町　若槻礼次郎

〔付記〕

本稿は、山陰研究プロジェクト　近代山陰の政治と文化―「渡部寛一郎関係文書」・「若槻礼次郎関　係文書」に見る漢詩と政党政治の関係分析を通して―（二〇一四～二〇一五年度、代表・要木純一）及び、

科研費　基盤研究（C）

近代山陰地域の漢詩と官僚出身政治家の文化教養環境―中国文学

と日本史学の学際的研究（研究課題／領域番号　16K02366　期間
二〇一六～二〇一八年度　研究代表者　要木純一）
による成果の一部である。

【表１】若槻礼次郎発・渡部寛一郎宛書簡の政治史上の位置―内閣・帝国議会・総選挙との関係（改訂版）

内　閣（総理大臣・発足年月日）	帝国議会		総選挙		渡部寛一郎宛書簡					渡部寛一郎経歴	若槻礼次郎経歴
	回	開会年月日 閉会年月日	回	執行日	発信年月日	史料番号	目録番号	発信人	内容		
桂　太郎 1912.12.21	30	1912.12.27 1913.3.26								1907-1916 浜田高等女学校長	1912.12.大蔵大臣
山本権兵衛 ①1913.2.20					1913.5.30	1	2-1-53	若槻礼次郎	政党運動は初陣のため、同郷の先輩の応援を要請		
大隈重信内閣（1914.4.16）・寺内正毅内閣（1916.10.9）・原敬内閣（1918.9.29）……書簡なし										1920-1938 松南教育会会長 1920-1925 克堂会会長	1913.2. 立憲同志会創立、入党 1914.4-1915.8 大蔵大臣
高橋是清 1921.11.13	45	1921.12.26 1922.3.25			1922.3.7	2	2-1-40	若槻礼次郎	高橋内閣の大脱線、動揺。議会報告を約束。「党朋相結競征利」漢詩	1921-1938 松江市聯合教育会会長	
加藤友三郎 1922.6.12					1922.6.13 1922.6.25 1922.7.20 1922.7.21 1922.9.6 1922.9.16 1922.9.28ｶ 1922.9 1922.11.5 1922.12.3 1922.12.3 1922.12.	3 参考 4 5 6 7 8 9 10 11 12 参考	2-2-1 2-2-2 2-1-9 2-1-13 2-1-22 2-1-2-4 2-1-2-1 2-1-1-1 2-1-1-4 2-1-36 2-1-37-1 2-1-37-2	若槻礼次郎 渡部寛一郎 若槻礼次郎 若槻礼次郎 若槻礼次郎 若槻礼次郎 若槻礼次郎 若槻礼次郎 若槻礼次郎 若槻礼次郎 若槻礼次郎 新聞記事	高橋内閣改造失敗で瓦解、加藤内閣批判 岡崎吉蔵宛、2-2-1を時事参考のため提示 克堂会員の増加を感謝、遊説の盛況を報告。遊説途次漢詩、松江所感漢詩 銅像一件取成し依頼。克堂会、殿町倶楽部員中案内送付者連絡依頼。奈良漢詩訂正 姫路遊説。漢詩 「函館蓬莱町通り」絵葉書、漢詩 「阿寒湖瀧口附近」絵葉書、漢詩 「帯広小泉旅館」絵葉書、漢詩 「太宰府神社梅園」絵葉書、漢詩。松山で投函 漢詩 漢詩 紙名他不詳、記事切抜。見出しは「後赤壁紅葉館の雅集」		

内閣（総理大臣・発足年月日）	帝国議会		総選挙		渡部寛一郎宛書簡					渡部寛一郎経歴	若槻礼次郎経歴
	回	開会年月日 閉会年月日	回	執行日	発信年月日	史料番号	目録番号	発信人	内容		
加藤友三郎	46	1922.12.27 1923.3.26									
第２次山本権兵衛内閣（1923.9.2）……書簡なし											
清浦奎吾 1924.1.7	48	1923.12.27 1924.1.31 解散			1924.3.1	13	2-1-29	若槻礼次郎	島根県各選挙区候補者擁立情勢と依頼。 漢詩「本是神州精気鍾」		
					1924.3.29	14	杓子郵便	若槻礼次郎	宮島杓子に「必勝ヲ期ス　三月廿九日 若槻礼次郎」と記す。本誌第８号【図１】 【図２】		
					1924.3.30	15	2-1-12	若槻礼次郎	帰松時の世話御礼。松江市の候補者擁立 問題。石見での漢詩。【図３】～【図５】		
			15	1924.5.10	1924.4.2	16	2-1-35	若槻礼次郎	九州・四国行き。漢詩		
加藤高明 1924.6.11	49	1924.6.28 1924.7.18									1924.6.内務大臣
					1924.9.19	17	2-1-48	若槻礼次郎	予算問題のため帰松予定を10月下旬に延期 賣豆紀神社参拝、小学校出席予定		
					1924.10.8	18	2-1-52	若槻礼次郎	10月11日の柳橋柳光亭観月詩会の案内		
					1924.10.11	19	2-1-7-2	若槻礼次郎	柳橋柳光亭での観月詩会での漢詩		
					1924.11.6	20	2-1-1-2	若槻礼次郎	「陸軍特別大演習」記念絵葉書に漢詩		
					1924.12.10	21	2-1-41	若槻礼次郎	松浦鸞洲伯から贈られた『天空海闊楼観月 詩集』への返詩		
	50	1924.12.26 1925.3.30			1925.1.5	22	2-1-25	若槻礼次郎	昨年末の盲腸炎への見舞いに対する返礼		
					1925.4.8	23	2-1-1-3	若槻礼次郎	興津行き、同地での作詩　「漢詩」		

内　閣（総理大臣・発足年月日）	帝国議会		総選挙		渡部寛一郎宛書簡					渡部寛一郎経歴	若槻礼次郎経歴
	回	開会年月日 閉会年月日	回	執行日	発信年月日	史料番号	目録番号	発信人	内容		
加藤高明					1925.5.10	24	2-1-17	若槻礼次郎	松江市議選尽力への御礼。５月８日星岡茶寮での詩会報告。漢詩		
					1925.10.6	参考	2-2-5	若槻礼次郎	10月30日の柳光亭観月詩会の案内と漢詩		
若槻礼次郎 1926.1.30	51	1925.12.26 1926.3.25			1926.1.	参	2-1-5	若槻礼次郎	「華甲自寿」	1926-1930 島根県議会議員	1926.1.-1927.4. 内閣総理大臣
					1926.1.	参	2-1-43-1	若槻礼次郎	漢詩三首		
					1926.2.8	参	2-1-42	若槻徳子	内閣総理大臣親任祝賀に対する返礼		
					1926.	参考①	2-2-8		唐・許渾の漢詩「八月十五夜　宿鶴林寺翫月」		
						参考②	2-2-10		柳光亭観月詩会での若槻礼次郎の漢詩		
						参考③	2-2-7		柳光亭観月詩会での若槻礼次郎の漢詩		
						参考④	2-2-9		柳光亭観月詩会での若槻礼次郎の漢詩		
						参考⑤	2-2-6		柳光亭観月詩会での若槻礼次郎の漢詩		
					1926.9.22	参考	2-2-4	新聞記事	柳光亭雅集を報じた「東京日日新聞」記事の切抜、「若槻さんの閑日月」等の見出し		

〔以上、本誌前号掲載史料を示す。表は一部補訂した。〕

内　閣（総理大臣・発足年月日）	帝国議会		総選挙		渡部寛一郎宛書簡					渡部寛一郎経歴	若槻礼次郎経歴
	回	開会年月日 閉会年月日	回	執行日	発信年月日	史料番号	目録番号	発信人	内容		
田中義一 1927. 4.20	53	1927.5.4 1927.5.8			1927.10.4	参	2-1-33-2	国府種徳	号犀東。若槻礼次郎帰松に際し漢詩二首		
					1927.10.5	25	2-1-32	若槻礼次郎	犀東国府種徳に漢詩添削を求め、漢詩を寄せられたこと。若槻の漢詩（2-1-33-1）		
					1927.10.27	26	2-1-18	若槻礼次郎	帰県中の厚遇への御礼。松江出発時の漢詩		
					1927.11.	27	2-1-47	若槻礼次郎	帰県中の厚遇に再度御礼。犀東国府種徳添削の漢詩		
					1927.11.4	28	2-1-30	若槻礼次郎	渡部寛一郎の上京予定通知書簡への返信。荒川嶺雪作品鑑賞後の漢詩		

内閣（総理大臣・発足年月日）	帝国議会		総選挙		渡部寛一郎宛書簡					渡部寛一郎経歴	若槻礼次郎経歴
	回	開会年月日 閉会年月日	回	執行日	発信年月日	史料番号	目録番号	発信人	内容		
田中義一	54	1927.12.26 1928.1.21 解散	16	1928.2.20	1928.2.23	29	2-1-6	若槻礼次郎	総選挙大勝の歓びとその漢詩。普選の精華を謳歌		
					1928.3.21	30	2-1-11	若槻礼次郎	津森翁の逝去追悼。伊東の小廬を東久世伯の扁額に因み古風庵と称す		
	55	1928.4.23 1928.5.6			1928.9.11	31	2-1-10	若槻礼次郎	床次脱党など民政党の内紛に付き説明。内村鱸香追贈の件、潮内務次官に発簡。漢詩		
					1928.11.6	32	2-1-2-3	若槻礼次郎	上洛時の滞在先通知		
					1928.11.10ヵ	参考	2-1-45	渡部寛一郎	御大典参列に際し漢詩		
	56	1928.12.26 1929.3.25			1929.3.29	33	2-1-19	若槻礼次郎	議会閉会日前後で渡部寛一郎紹介の人物に会わず、寄付の件につき考えを通知。漢詩		
浜口雄幸 1929.7.2					1929.7.24	34	2-1-38	若槻礼次郎	北海道鉄道局長栄転の大江香峰送別詩会への誘い		1929.11.ロンドン海軍軍縮会議首席全権
					1929夏(推定)	35	2-1-46	若槻礼次郎	漢詩「負暄庵雑詠之一」		
					1929.10.16	36	2-1-15	若槻礼次郎	山陰大詩会の漢詩の感想。ロンドン軍縮会議全権の抱負と日程		
	57	1929.12.26 1930.1.21 解散	17	1930.2.20	1930.2.1	参考	2-1-49	若槻徳子	賀状と卵焼の礼状		
					1930.9.20	37	2-1-23	若槻礼次郎	10月の帰松日程。先祖供養を目的、観月筵出席は未定。漢詩		
					1930.10.22	38	2-1-27	若槻礼次郎	帰県時の厚意への御礼。漢詩		

内　閣 （総理大臣・発足年月日）	帝国議会		総選挙		渡部寛一郎宛書簡					渡部寛一郎経歴	若槻礼次郎経歴
	回	開会年月日 閉会年月日	回	執行日	発信年月日	史料番号	目録番号	発信人	内容		
臨時代理 幣原喜重郎 1930.11.15	59	1930.12.26 1931.3.27			1930.12.27	39	2-1-39	若槻礼次郎	病気見舞い。上京中の渡部寛一郎会食予定困難。首相療養。多摩陵参拝漢詩		
					1931.1.14	40	2-1-44	若槻礼次郎	漢詩「次桃蹊先生見寄詩韻、以答」		
					1931.1.18	41	2-1-21	若槻礼次郎	渡部寛一郎の来訪時の不在を詫び、21日に牧野鐵篶とともに詩話・粗餐に招待。		
					1931.1.21	42	2-1-43-2	若槻礼次郎	若槻礼次郎・渡部寛一郎・牧野鐵篶の鼎座の漢詩		
					1931.1.26	43	2-1-26	若槻礼次郎	来訪御礼。漢詩		
若槻礼次郎 1931.4.14					1931.5.24	参考	2-1-2-2	若槻徳子	好物恵贈御礼		1931.4.-1931.12. 内閣総理大臣
犬養　毅 1931.12.13	60	1931.12.26 1932.1.21 解散	18	1932.2.20	1932.1.31	44	2-1-3	若槻礼次郎	佐藤喜八郎の立候補断念に関し同家事情と選挙区情勢		
斎藤実 1932.5.26	63	1932.8.23 1932.9.4			1932.10.17	45	2-1-20	若槻礼次郎	村上琴屋死去追悼。追悼漢詩		
	64				1933.5.9	46	2-1-24	若槻礼次郎	葛見神社に関する問い合わせに回答。雑賀小学校創立60周年祝賀の漢詩		
					1933.12.8	47	2-1-8	若槻礼次郎	見舞いと漢詩贈与に御礼。国家を詠む漢詩二首ほか。剪淞吟社に寄附申し出		
	65	1933.12.26 1934.3.25			1934.3.29	48	2-1-7-1	若槻礼次郎	渡部寛一郎著書送付御礼。若槻夫妻の伊東転地療養。漢詩三首		
岡田啓介 1934.7.8	67	1934.12.26 1935.3.25			1935.8.7	49	2-1-34	若槻礼次郎	片瀬別荘を売却し山中湖畔に別荘購入。半月荘と命名した趣意。漢詩二首		1934.7. 立憲民政党総裁辞任

内閣（総理大臣・発足年月日）	帝国議会		総選挙		渡部寛一郎宛書簡					渡部寛一郎経歴	若槻礼次郎経歴
	回	開会年月日 閉会年月日	回	執行日	発信年月日	史料番号	目録番号	発信人	内容		
岡田啓介	68	1935.12.26 1936.1.21 解散	19	1936.2.20	1936.1.26 1936.1.27	50 51	2-1-16 2-1-28	若槻礼次郎 若槻礼次郎	前年11月から風邪、伊東に転地。衆議院解散で23日に急遽帰京。元旦所感漢詩 渡部寛一郎の漢詩を回示された牧野鐵篶の返書送付。『花香月影』掲載の見込み		
広田弘毅 1936.3.9					1936.4.11	52	2-1-14	若槻礼次郎	渡部寛一郎送付の詩に敬服。牧野鐵篶・谷口廻瀾来訪。自作詩集掲載詩を披露	1936.8. 歌集『五十の藻屑』出版	
林銑十郎内閣（1937.2.2）……書簡なし											
近衛文麿 1937.6.4	73	1937.12.26 1938.3.26			1938.3.12 1938.5.	53 54	2-1-50 2-1-4	若槻礼次郎 若槻礼次郎	渡部寛一郎の訃報電報を受け、弔電発し、弔意を述べる 渡部寛一郎追憶・顕彰漢詩	1938.3.10 自宅で死去	
					年不詳.5.7	参考	2-1-51	若槻徳子	贈られた甘鯛の御礼〔本号末尾に掲載〕 封筒（消印「14.10.6」ヵ）は別書簡のものと考えられる		

出典：若槻礼次郎・若槻徳子発渡部寛一郎宛書簡、原一雄編著・原洋二校訂『渡部寛一郎の生涯』(私家版)、2009年、若槻礼次郎『古風庵回顧録』読売新聞社、1950年、遠山茂樹・安達淑子編著『近代日本政治史必携』岩波書店、1961年等により作成

【表２】【表１】所掲期間中の衆議院議員総選挙結果（政党別当選議席数・得票総数）（全国）

衆議院議員総選挙		内閣総理大臣	立憲政友会		政友本党		中央倶楽部(11)・立憲同志会(12)憲政会(13～15)・立憲民政党(16～19)		その他とも総計	
回	執行日		当選	得票総数	当選	得票総数	当選	得票総数	当選	得票総数
11	1912.5.15	西園寺公望	209	688,613			30	109,932	381	1,330,361
12	1915.3.25	大隈　重信	108	446,934			153	523,228	381	1,405,837
13	1917.4.20	寺内　正毅	165	504,720			121	469,243	381	1,293,702
14	1920.5.10	原　　敬	278	1,471,818			110	719,616	464	2,620,077
15	1924.5.10	清浦　奎吾	102	660,066	111	736,328	152	872,533	464	2,951,190
16	1928.2.20	田中　義一	217	4,244,384			216	4,256,010	466	9,866,195
17	1930.2.20	浜口　雄幸	174	3,944,493			273	5,469,114	466	10,447,195
18	1932.2.20	犬養　　毅	301	5,682,647			146	3,393,935	466	9,723,116
19	1936.2.20	岡田　啓介	174	4,191,442			205	4,447,653	466	11,132,480

出典：遠山茂樹・安達淑子『近代日本政治史必携』岩波書店、1961年（1971年第７刷）により作成
注１　政党の離合集散による当選者・得票総数の継承関係は無視した。
　　なお、第11回総選挙における立憲国民党の当選は95、得票総数は381,465、第12回総選挙における大隈伯後援会の当選は12、得票総数は55,684である。
２　第11回～第13回総選挙時の選挙権納税資格は、直接国税10円以上
３　第14回・第15回総選挙時の選挙権納税資格は、直接国税３円以上
４　第16回総選挙から納税資格撤廃（男子普通選挙）
５　憲政会・政友本党は1927年６月１日に合流して立憲民政党結成

【表３】【表１】所掲期間中の衆議院議員総選挙結果（政党別当選議席数・得票総数）（島根県）

衆議院議員総選挙		内閣総理大臣	立憲政友会		政友本党		中央倶楽部(11)・立憲同志会(12)憲政会(13～15)・立憲民政党(16～19)		その他とも総計	
回	執行日		当選	得票総数	当選	得票総数	当選	得票総数	当選	得票総数
11	1912.5.15	西園寺公望	3	11,107			3	5,719	7	19,740
12	1915.3.25	大隈　重信	0	2,711			5	14,816	7	21,466
13	1917.4.20	寺内　正毅	3	8,707			3	7,846	7	18,970
14	1920.5.10	原　　敬	6	26,796			1	13,703	7	40,606
15	1924.5.10	清浦　奎吾	1	8,295	3	15,625	3	20,892	7	44,812
16	1928.2.20	田中　義一	1	31,282			4	90,944	5	144,417
17	1930.2.20	浜口　雄幸	1	38,272			5	106,034	6	148,342
18	1932.2.20	犬養　　毅	2	49,291			4	86,596	6	144,895
19	1936.2.20	岡田　啓介	1	37,121			5	107,301	6	144,422

出典：遠山茂樹・安達淑子『近代日本政治史必携』岩波書店、1961年（1971年第７刷）により作成

Reprint;Letters from Wakatsuki Reijirou to Watanabe Kanichirou:1927-1938

Research Project on Works of Watanabe Kanichirou

〔Abstract〕

This text is part of the documents relating to Watanabe Kanichirou which descends to his great-grandchild.

Wakatsuki Reijirou(1866-1949), the 25th and 28th Prime Minister of Japan(Belonging to Kenseikai party), wrote a lot of letters to Watanabe Kanichirou(1854-1938),who was an influential educator in Shimane prefecture and the head of the society in support of Wakatsuki (Kokudoukai).

Here we transcribe the latter half of Wakatsuki's letters. In these letters we can perceive the relationship between statesmen of central government and local intellectuals in those days. Exchanging Kanshi poems (Chinese style poems) on letters was very important for such relationship.

Key words : Wakatsuki Reijirou, Watanabe Kanichirou, Kokudoukai, Kenseikai, Kanshi poems